

静岡県立静岡聴覚特別支援学校（静岡聾学校）

学校だより

令和3年度第16号（令和3年12月22日発行）



12月以降、急に寒さが増してきました。感染症が激減の静岡市街はすっかりクリスマスの雰囲気です。しかし、オミクロン株や年末年始の人の移動によって、再び感染の広がりが懸念されています。気持ちや行動にブレーキを掛けながらも何か楽しみをもちたいところですが、御家庭での冬休みの計画はいかがでしょうか。

さて、11月24日『スポーツ応援隊』でトヨタ所属のアスリート2人（陸上短距離走の佐藤選手と、円盤投げの湯上選手）が来校しました。義足で走る佐藤選手は、「〇〇だからやらない」ではなく「〇〇だけれどやってみる」を実践し「自分の意思で決めてきた」というお話をしてくださいました。また、聴覚障害の湯上選手は、「未来の自分を生きる」ために、目標を達成したときの言葉を部屋の壁に貼っているそうです。結果を出すために目標に向かって日々鍛錬しているアスリートは、並々ならぬ努力をしていますが、子供たちに語り掛ける姿はたいへんやさしく、その言葉には力強さを感じました。2人のお話は、小・中学部の児童生徒の心に大きく響いたと思います。

また今月は、幼稚部マラソン大会と小・中学部持久走大会がありました。子供たちが目標に向かってがんばる姿は、とても頼もしく感じました。ジョギングは、自分の生活リズムに合わせて、自分のペースで走ることが出来ます。市民ランナーとしてマラソンを続けている特別支援学校卒業生も多くいます。私も子供の頃、父と一緒に毎朝走っていました。その頃は楽しいというより苦痛でしかありませんでしたが、今では体を動かす楽しさにつながっています。この冬は、寒さに負けず御家族で体を動かし、元気にお過ごしください。



24日(金)は2学期終業式です。83日間の長い学期でした。2学期もコロナ禍の教育活動でしたが、みんな元気に活動することができました。保護者や地域の皆様には、本校の教育活動への御理解と御協力をいただき、心より感謝申し上げます。良い年末年始をお過ごしください。

